

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：農林水産業費 項：水産業費 目：水産業振興費

事業名 カワウ駆除対策事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 農村振興課 鳥獣害対策係 電話番号：058-272-1111 (内 3176)

E-mail：c11427@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 325 千円 (前年度予算額：325 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財産 収入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	325	0	0	0	0	0	0	0	325
要求額	325	0	0	0	0	0	0	0	325
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

カワウ駆除対策に係る関係機関の調整及び現地確認等を行う。

(2) 事業内容

- ・カワウ被害対策会議の実施
- ・中部近畿カワウ広域協議会への出席
- ・カワウ駆除対策事業に係る現地確認 等

(3) 県負担・補助率の考え方

カワウ駆除対策は、市町村をまたぐ広域の施策であり、また県を超えた広域連携が必要であるため、県が主体となって事業を行う必要がある。このため、当該経費は県が負担する。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	144	カワウ被害対策研究会
旅費	134	業務旅費及び費用弁償（講師）
消耗品費	4	事務用品及びコピー等
会議費	2	ペットボトル飲料
役務費	10	通信運搬費
使用料及び賃借料	31	カワウ対策研究会会場利用料金
合計	325	
決定額の考え方		

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

○ぎふ農業・農村基本計画（平成28～令和2年度）

第5章 政策の方向性

2 売れるブランドづくり

(3) 鮎王国ぎふの復活

①漁獲量の増加

○岐阜県カワウ被害対策指針（平成28年3月）

第2章 カワウ被害軽減の目標と対策

2 対策

(2) 国・他県の状況

・特定鳥獣保護管理計画作成のためのガイドライン及び保護管理の手引き（カワウ編）の策定（環境省）

・伊崎国有林の森林管理におけるカワウ対策方針の策定（滋賀森林管理署）

・カワウ保護管理計画等の策定（滋賀県他22都府県）

(3) 後年度の財政負担

カワウ対策の目標は漁業協同組合が受忍できる程度にカワウの個体数を減少させ、これを維持することである。カワウの根絶そのものは難しく、毎年隣県から移入もあることから、経年的な予算措置が必要である。

(4) 事業主体及びその妥当性

カワウは1日の行動範囲が15～25キロメートルあり、市町村をまたぐ広域的な捕獲対策が必要なため、県が中心となって捕獲の取組みを進めるとともに、その成果を踏まえ、市町村を越えて広域対策を行う枠組みづくりを進める必要がある。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

カワウ駆除対策に係る関係機関の調整及び現地確認等を行う。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値	目標	達成率
	(H)	(H)	(H)	(H)	(H)	-%

○指標を設定することができない場合の理由

本事業費はカワウ駆除対策に係る関係機関の調整等に必要な経費であり、個別のカワウ駆除対策事業に係る目標については、別途掲げているため。

（前年度の取組）

・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）

○カワウ被害対策に係る会議（12月に1回実施予定）

○カワウ生息羽数調査（年3回・52か所）

県内のカワウのコロニー及びねぐらの生息羽数を調査する。

（前年度の成果）

・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果

○県内全漁業協同組合等に対するカワウ対策説明会の開催により、県内のカワウの現状に係る情報共有を行うとともに、県のカワウ対策の概要について、周知することができた。

○カワウ生息羽数調査の実施により、カワウ駆除対策の効果の検証を行うことができた。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い、△：必要性が低い 	
(評価) ○	カワウの分布域が拡大するとともに、漁業被害が深刻化しており、駆除対策をとる必要がある。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおり又はそれ以上の効果が得られている、△：まだ期待どおりの成果が得られていない 	
(評価) △	カワウ被害は終息しておらず、期待した成果は上がっていない。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている、△：向上の余地がある 	
(評価) ○	説明会を通じてカワウの駆除対策に関わる関係機関の情報共有を行うとともに、カワウ駆除対策の効果検証を行っている。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 <p>カワウ駆除対策に係る関係機関（漁業協同組合、市町村及び県等）の連絡調整体制を整備し、カワウの捕獲及び追い払い等の情報について情報共有を行う。また、県境を越えて季節移動するため、県域を越えた連携が必要となる。今後、中部近畿カワウ広域協議会等において積極的な情報発信を行い、関係県で連携したカワウ広域対策が行われるように働きかけを行う。</p>
--

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか <p>カワウの分布域が拡大するとともに、漁業被害が深刻化しており、駆除対策をとる必要があるため、事業を継続する。</p>
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	【○○課】
組み合わせて実施する理由や期待する効果 など	